

# 平成28年2月市議会定例会一般質問発言通告書（発言順）

## ◎ 代表質問

いばら月曜会

10番 簗戸利昭

### 1. 平成28年度の一般会計予算の概要について

1) 基本目標1 心豊かでたくましいひとを育てるまち『教育・文化』の中の次の2点について伺います。

①放課後学習サポート事業（平成28年度から中学校で実施）の内容について伺います。

②小学校・中学校へ校務支援システムの導入とありますが、どういうシステムが導入されるのか伺います。

2) 基本目標2 いつまでも健康で はつらつと生きるまち『保健・医療・福祉』の中の次の4点について伺います。

①母子衛生事業の中の産後ママあんしんケア事業の内容について伺います。

②保育園・幼稚園保育料軽減事業で国・県の軽減事業に加え、就学前の児童のうち2人目以降の保育料無償化を市独自施策として実施とありますが、対象人数はどれくらいを見込んでいるのか伺います。

③小規模保育事業所整備事業で美星老人憩の家の一部を改修し、小規模保育事業所を整備とありますが、どのような設備になるのか伺います。

④利用者支援事業（保育コンシェルジュ1名配置）とありますが、その内容について伺います。

3) 基本目標3 美しい自然を未来につなぐまち『環境保全』の中の次の3点について伺います。

①環境マイスター育成講座を昨年から開催されていますが、その内容と効果について伺います。

②新規に夏休み子どもエコ教室の実施とありますが、どのような内容をどこで実施されるのか伺います。

③合併処理浄化槽設置補助の中の公共下水道の認可区域外の単独浄化槽撤去に係る補助は、どのような形で支給されるのか伺います。

4) 基本目標4 活力と交流を生み出すまち『産業』の中の次の4点について伺います。

①農産物ブランド化チャレンジ事業補助

②本社機能移転促進補助

③民間事業用地開発促進奨励事業

④店舗改装補助

5) 元気いばら まち・ひと・しごと創生総合戦略の中の元気いばらおいでんせ～事業の次の2点について伺います。

①いばらぐらしお試し住宅事業

②いばらぐらし体験ツアー事業

◎ 個人質問

7番 坊野 公治

1. 地域見守りネットワーク事業の構築について

誰もが住み慣れた地域で安心して生活できるまちづくりを構築するため、企業や事業者の方と連携して、地域の高齢者などを見守る仕組み「地域見守りネットワーク」を構築されてはどうか伺う。

2. 骨髄ドナー助成制度の創設について

白血病などの患者に骨髄や末梢血幹細胞を提供するには、採取前後の健康診断を含めて通院・入院に9日間程度が必要で、適合者が見つかりながら、仕事などの都合で移植に結びつかないケースもあるという。岡山県においては、平成28年度から助成制度が創設され、ドナーらへの助成制度を設ける市町村に補助を行うとのことである。井原市においても早急に制度を創設されてはどうか伺う。

5番 惣台 己吉

1. 「元気いばら まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げる新規事業について

1) 「元気いばら まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標2「井原市への新しいひとの流れをつくる」の実現のための具体的事業に「お試し住宅の整備」及び「(仮称) いばら暮らし体験ツアー」といった移住体験をする新規事業を掲げられているが、その事業内容について伺う。

2) 基本目標2の実現のための具体的事業で、「(仮称) 中古住宅購入等助成金」を新たに創設されることになっているが、その内容について伺う。

1. ひとり暮らしや車の運転など交通手段を持たない方々の買い物支援策について

福祉のしおりでは、軽度生活援助サービスについて「おおむね65歳以上のひとり暮らしや65歳以上の人のみで構成された世帯で、日常生活の援助が必要とされる方」を対象に、1時間100円で買い物などのさまざまな支援策が明記してあります。

しかし、現実には75歳以上の方の運転免許証の返納啓発が進んでいますが、車社会のこの中山間地域において、車は生活になくてはならない手段の一つであり、その目的の主なものに買い物や通院があります。公共交通機関では目的地まで行くのに時間もかかり非常に困難です。

現在、各地に民間事業者による移動販売が増加しており、あわせて、顧客の様子などの見守りも兼ねて営業をしています。

行政がそこまで行うのは、コスト的にも、また、公平性の観点からも困難であると思います。そこで、その業者の支援策として、申請があれば燃料代などを支給する支援を考えてはどうか伺います。

2. 高齢者の子育て支援について

3世代同居世帯や子供たちの近所に暮らす祖父母の方たちの中には、孫の世話など子育てをする方も増えています。しかし、祖父母の子育て時代と違う点もあり、戸惑う方もおられます。特に、乳児には気を遣うと思います。そういった方々に母子手帳ならぬ、仮称ですが、「祖父母子育て手帳」などを作成し、子育ての参考書、手引書としてはどうか提案します。

さいたま市が既に行っていますが、本市ではどうお考えか伺います。

1. 元気いばら まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン、総合戦略について

本格的な人口減少時代を迎え、今後、どのような施策の展開を図っていこうと考えておられるのか、次の3点について伺います。

①将来人口の推計について

②行政と市民との連携について

③第7次総合計画との関連について

## 2. 用水路の安全対策について

近年、県下で用水路や側溝に転落する事故が多発しています。農業用水路を多く抱える本市においても安全対策を講じる必要があると思います。転落事故防止策をどのように進めていこうと考えておられるのか、次の3点について伺います。

①本市における転落事故の発生状況について

②危険箇所の把握及び啓発について

③危険箇所の解消対策について

1 番 西 村 慎次郎

## 1. 学校教育における情報化の推進について

計画期間が今年度までとなっている「第3次井原市情報化計画」に基づき井原市の情報化が推進され、現在、来年度からの3年間を計画期間とする「第4次井原市情報化計画」が策定されているところである。

また、平成26年10月には、「井原市教育情報化計画」も策定されており、これらの計画に基づき、教育委員会の情報化が推進されているものと思われる。

そこで、井原市の学校教育における情報化の推進について、現在の取り組み状況と今後の計画について伺う。

1. 人口減少対策について

1) 井原市立高校に、商業、工業の専門課程を創設したらどうか伺います。

現在、市内の高校には商業、工業の専門課程がなく、一旦、普通科高校へ進学した後、市外の専門学校や大学で専攻する人もおり、それが井原離れにつながると思います。市立高校に商業、工業の専門課程があると、市内の企業への就職につながるとは思いますが、お考えを伺います。

2) 新婚世帯に激励金を考えたらどうか伺います。

人口を増やすには、子育て世代に、特に新婚世帯に激励金の支給を考えたらと思います。お考えを伺います。

3) 第3子以降の子供に奨励金を考えたらどうか伺います。

市内で3人以上の子供を持つ家庭は少数と思いますが、人口減少に歯止めをかける意味からも3人目以降の子供に奨励金を支給したらどうかと思いますが、お考えを伺います。

1. イバラノミクスについて

平成25年度から実施されている経済・雇用対策補助事業イバラノミクスは、2月に策定された「元気いばら まち・ひと・しごと創生 総合戦略」にも盛り込んであり、3年間の事業評価を経て、さらに磨きをかけ、新しい事業の実施や内容の充実を図るなど積極的に推進していくと示されています。

そこで、平成28年度におけるイバラノミクスについて、また、新たな事業について具体的な内容を伺います。

1. 井原市が協会けんぽと「健康づくりの推進に向けた包括的連携に関する協定書」を締結する方向へ進めることについて

現在井原市では、国民健康保険（国保）加入世帯に健康増進のための施策を周知・啓蒙しています。これら国保加入世帯だけでは、市民全体の一部ということになります。国保加入世帯だけでなく全国健康保険協会（愛称：協会けんぽ）と連携をとり、情報を共有することにより、より広範な市民を対象に健康増進の方針と施策を講ずることができるようになります。

健康寿命日本一を目指す井原市と協会けんぽ岡山支部が「健康づくりの推進に向けた包括的連携に関する協定書」を締結し、より多くの市民を対象に健康増進のための施策を打ち出すようにしてはどうでしょうか。

2. 3歳児教育未実施幼稚園への3歳児受け入れ条件の早期整備について

市内幼稚園で3歳児教育未実施幼稚園は、現時点で高屋、稲倉、木之子、西江原の4園です。稲倉は来年度から実施ということなので、残るは3園となります。

3歳児教育が実施されている地域では、関係者の方は大変喜ばれています。しかし、未実施地域では「早く受け入れてほしい」との希望が強いようです。この3園で実施できない理由は個々にどんなことなのか、その理由を解決するためにはどうすればよいとお考えなのか。

未実施の3園について、受け入れ条件を早期に整備し、1日も早い実施を望みます。

3. 国民健康保険税（国保税）引き上げ幅緩和のため、他会計等からの繰り入れ策の実施について

国民健康保険（国保）財政の厳しさは理解していますが、被保険者の生活面での厳しさは大変なものがあります。以前から被保険者の「国保税が高すぎる」「これ以上の負担は大変だ」との多くの声を聞きます。

国保財政難のため国保税の引き上げをされるようですが、このまま行きますと今後も財政難・税の引き上げという「イタチごっこ」の様相を呈してきます。天井知らずの引き上げということにもなりかねません。

そこで、私は国保税の引き上げには反対ですが、やむを得ない事情により最悪引き上げるということであれば、私が以前から言っているように、被保険者の負担軽減を考え、他の自治体でもやっている一般会計からの法定外繰り入れとか、財政調整基金（同基金条例第6条第1号に該当）から一般会計に繰り入れ、その後国保会計へという方法などを採り、引き上げ幅を少しでも低く押さえる施策を講ずるべきではないでしょうか。

#### 4. 洋式トイレがない公共施設ゼロを目指すことについて

市内の公共施設でまだ洋式トイレのない施設があります。公共施設なので老若男女がトイレを使われます。そうした中で和式では足腰が悪いので利用しづらいという方もおられると思います。そういう方のために和式を洋式にやりかえてはどうですか。公共下水道が整備されていない地域については、「簡易設置型洋式トイレ」の設置ということも考えられます。

市内の公共施設のどこへ行っても洋式トイレがあり、安心して施設が利用できるよう、洋式トイレがない公共施設ゼロを目指してはどうですか。

#### 5. 市民病院に軽食喫茶風「和みコーナー」を開設することについて

井原市民病院で受診される患者さんや、受診が長引いて正午過ぎまで待つことになるような患者さんとか、ほかにも理由はいろいろあると思いますが、時間待ちをされる間、一杯のコーヒーなどを飲むとか、サンドイッチを食べるなど、病院を利用される方々のために、病院の一角に軽食喫茶風「和みコーナー」を開設してはどうですか。

#### 6. 以前の私の質問に対するその後の検討結果について

以前私が一般質問した中で、次の質問は検討するなどのご答弁でした。その後の検討結果をお尋ねいたします。

また、次のうち新年度予算に反映されているものがありますか。

- 1) 質問＝自動体外式除細動器（AED）を市内のすべての公共施設に設置しては。  
答弁＝今後の整備については、施設間の共同利用や財政的負担等も勘案し順次設置を検討していきたい。（2014年12月11日）

2) 質問＝井原市民病院に勤務する意志のある医大生等に対する修学資金貸与制度を創設しては。

答弁＝引き続き調査研究を行い、今後とも医師確保対策に努めてまいりたい。

(2015年3月4日)

3) 質問＝軽度認知障害(MCI)のチェック制度の導入と市民への周知について。

答弁＝どういったものが良いのか、検査を行う場所や実施体制も含め、実施に向けて検討し、取り組みを早期に進めていきたい。(2015年6月23日)

8番 藤原浩司

1. ひとり親家庭の支援及び子供の貧困対策について

①井原市内に、ひとり親家庭(父子家庭含む)は何世帯あるのか伺う。

②母子家庭と父子家庭の現状及び子供の貧困をどのように調査されているのか伺う。

③母子家庭の母及び父子家庭の父の就業の支援に関する特別措置法の施行について、井原市はどのような取り組みを実施されているのか伺う。

④井原市内の母子家庭及び父子家庭の全ての方々が支援を受けているのか伺う。

⑤ひとり親家庭の支援及び子供の貧困対策について、今後どのように展開していくのか、井原市の考えを伺う。

16番 佐藤 豊

1. 不妊治療の助成拡充について

国の2015年度の補正予算が成立し、不妊治療の助成範囲と助成額が拡大・

拡充され支給が開始されています。今回の助成範囲の拡大の特徴は、男性の不妊治療費として15万円が助成されることが盛り込まれていることです。全国には、すでに男性の不妊治療費助成を自治体独自に実施しているところも多くあるようで、近隣でも倉敷市や浅口市などが実施しています。本市の国の補正予算成立を受けての対応をどのようにお考えか伺います。

## 2. 用水路・側溝の安全対策の現状について

岡山県内では、歩行中や自転車・原付バイクで走行中に用水路や側溝に転落して救急搬送された件数が、平成25年度から27年度上半期までの2年半で922件、その内、死亡者数68人、重傷者数111人との報道がありました。本市でも、過去に用水路に転落し死亡された方もおられる中で、今後、転落防止に向けた対策が必要と考えます。そこで、本市としての危険箇所の把握と安全対策の現状について伺います。

## 3. プレミアム商品券の事業効果について

昨年の9月議会で、地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金を活用したプレミアム商品券についての質問で、事業効果について伺いましたが、市長答弁では、「商品券購入者にアンケート用紙を配布しており、本年1月末までに回答をいただくこととしておりますので、その後、分析を行って事業効果などを確認してまいります。」とのことでしたが、分析状況について伺います。

## 4. 骨髄・末梢血幹細胞ドナー支援事業について

県の平成28年度当初予算案の中で、骨髄・末梢血幹細胞ドナー支援事業が盛り込まれています。この事業は、白血病の治療に必要な骨髄や末梢血幹細胞を提供するドナーに対し助成する制度です。背景には、患者とドナーの白血球の型が適合する確率が低いことから、多くのドナーの骨髄等が必要とされていることがあり、そうしたことからドナーが骨髄等を提供しやすい環境づくりとして、通院や入院費の助成を行うものです。さらに、適合者が見つかりながら仕事などの都合で移植に結びつかないケースもあることから、事業所に対する助成も盛り込まれています。本市としてもこの制度が活用できる体制を整備することが望ましいと思いますが、市長の考えを伺います。

## 5. AEDのコンビニエンスストアへの配置について

AED（自動体外式除細動器）の設置・配備が公共施設や学校、企業にも進む中、コンビニエンスストアへ配備する取り組みが進んでいます。利点としては、24時間営業ということで、休日・夜間等で公共施設や学校のAEDが使用できない際にも利用可能であり、救命率の向上にも効果的と考えられます。全国の事例でもコンビニエンスストアへの配備により救命に貢献したとの報告もあります。本市としても、市民の安全・安心の観点からコンビニエンスストア各店と協議のうえで推進するべきと思いますが、考えを伺います。

2番 河合謙治

### 1. ヘリコプターの活用について

現在、県内では、岡山市消防ヘリコプター「ももたろう」や川崎医科大学附属病院のドクターヘリ、岡山県警ヘリコプター、岡山県消防防災ヘリコプター「きび」があり、火災、救急、救助などの活動をされています。

ヘリコプター出動の判断は災害現場の救急隊員が行い、一般の方々からの要請には対応できません。また、運航は日の出から日没まで可能と定めておられます。

昨年12月16日に岡山県消防防災ヘリコプター「きび」を夜間も運航するよう岡山県に対し、5市（笠岡、井原、高梁、新見、真庭）の代表として、瀧本市長を含め、3市の市長が要望に行かれています。

この要望は、とても先進的な要望であり、全国では埼玉県で唯一防災ヘリに医療機器を搭載して、夜間時にドクターヘリ的運航をしているだけです。

そこで、次の2点についてお伺いします。

①その後、どのような経過になっているのか。

②今後、どのような展開を考えておられるのか。

### 2. 井原の鬼まつりについて

井原市内では、各地で鬼まつりが行われていますが、その中で、井原町の鬼まつりについてお伺いします。

鬼まっりの由来としては、文政5年（1822年）の昔、代官の趣意であったものが、村一統の総意により、村づくりの一環として、毎年行われることとなった記録が残っています。

井原町においては、一時、鬼の出場者が次第に減少していましたが、平成に入り交通安全推進啓発パレードと鬼まつりパレードとを一体として実施するようになりました。

これは、公民館をはじめ、各種団体、少年団育成会、井原警察署で組織する団体により実施されており、最近では継承していくために、井原高校の生徒と連携、協力し、若者と幅広い年齢層との交流や親睦を図っています。

そこで、井原市の観光イベントの1つとして、市に協賛、バックアップしてもらえないか伺います。